

別所遺跡 第26地点

遺跡名	別所遺跡
よみがな	べっしょいせき
調査地点	第26地点
主な時代	弥生時代後期末～古墳時代初頭
調査地	富士見市大字水子字別所 6327-3、6327-6、6345 の各一部
調査面積	2639.61 m ²
調査期間	平成29年11月20日～平成30年3月中旬
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代中期末～後期初頭の竪穴住居跡5軒、土坑 弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴住居跡13軒 平安時代の竪穴住居跡6軒 中世以降の溝跡、土坑</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代中期末～後期初頭の土器 弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器 平安時代の土器</p> <p>【概要】 別所遺跡は市域南部の水子地区の端部に位置し、南西側に柳瀬川を臨む台地の崖線部に立地しています。また、隣接する台地に刻まれた谷の反対側は針ヶ谷地区になり、遺跡のほぼ中央を東武東上線が横断しています。</p> <p>これまでの調査で、縄文時代の住居跡5軒、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡19軒（25地点を含む）、平安時代の住居跡8軒が検出されています。</p> <p>今回の調査では弥生時代後期末～古墳時代初頭を中心とした遺構が調査区全面に分布し、そのうち2軒は長軸8～9m×短軸7～8mほどの大規模な住居跡で、他とは異なる様相を示していました。その巨大な住居跡は焼失した住居跡で炭化材や焼土が広範囲に広がっていました。また、床面からは多量の土器が出土しました。</p> <p>調査区の北側では縄文時代中期末～後期初頭の住居跡が確認され、炉体土器や埋甕などが良好な状態で残されていました。</p>



調査区風景



拡張された竪穴住居跡



焼失した弥生時代の竪穴住居跡



弥生時代の竪穴住居跡から出土した土器



調査区を縦走する溝跡



一面が雪で覆われた発掘調査現場